



【医療】 導入事例

松本協立病院 心臓血管外科

アルケリスを使用してから、まだまだ手術ができます！
全国の手術室に有って当たり前になることを願っています

松本協立病院
心臓血管外科
診療部長 青木 雅一 先生

職員数：全体450名
病床数：199床



どのような手術で使用していますか

心臓弁膜症及び冠動脈バイパス術を含め、2時間以上の手術で使用しています。
内視鏡の手術では、手術台から10～20cm離れるため、「アルケリスモード」が合うと思います。
開胸のような覗き込む手術では、ちょっと一息ついたらアルケリスに座る。という使い方です。



使用前・後の違いはいかがですか

使用前は疲労と腰痛により、整体に行かないと治らない場合もあり、年々悪化していました。使用してからは、手術後もスタスタと歩けており、疲労や腰痛が長引きません。

そしてアルケリスを使うようになってから、外科医として「まだまだ手術できる。」と感じます。

どんな方にオススメですか

プロテクターを装着する手術では、足腰に体重以上の負荷がかかりますが、その負荷をアルケリスが軽減してくれるため、オススメです。

看護師さんも同じ時間手術室に居ますので良いと思います。

日本全国の医療機関にアルケリスが1、2台は配置されて当然になってくると良いですね。

